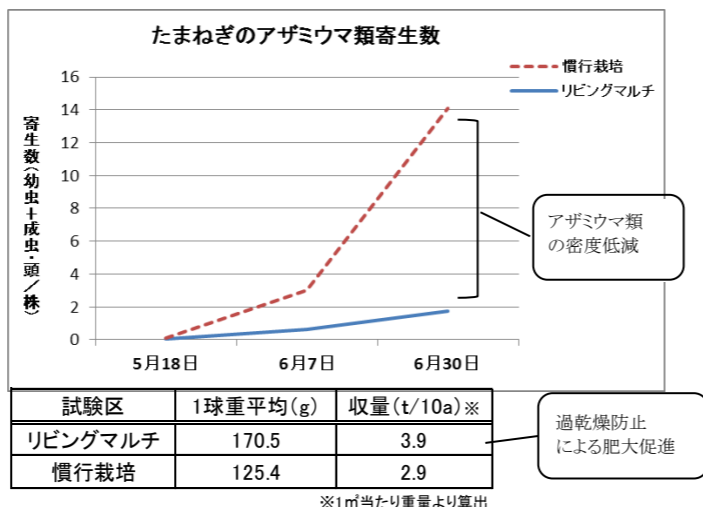


○リビングマルチ紹介～畝間に大麦を播いてみませんか？～

リビングマルチとは、栽培する作物とは別の植物を畝間など作物の周辺で栽培することです。

<リビングマルチの効果>

- ・土壌水分の保持や流亡抑止
- ・害虫(ネギアザミウマ等)の抑制
- ・雑草の抑制
- ・作物収穫後のすき込みによる土壌の物理性・化学性改善



【耕種概要】

たまねぎ 品種:「オーロラ」、播種日:1月27日、定植日:4月11日、収穫調査日:7月12日
株間:12.5cm, 畝幅150cm
大麦 品種:「てまいらず」、播種日:4月11日(たまねぎ定植と同時)、播種量:10kg/10a
枯れ始め:7月10日頃,刈り込み:7月6日(たまねぎの葉に麦が重なり、生育への影響が懸念されたため)

<リビングマルチ活用のポイント>

- ・畝間の中心部にすじ播きしましょう。(3kg/10a程度。畝の両端まで播くと、たまねぎの肥大を妨げます。)
- ・収穫期に枯れこむ品種「百万石」がおすすめです。(「てまいらず」より約1週間早く枯れます。)

○JAの機械・施設利用料一覧

工程	利用機械名	利用単価	利用単位	JA保有台数
播種	①全自動播種機	2,000円	10a	1
移植	②全自動移植機	10,000円	10a	1
収穫	③掘り取り機(ポニータ)	3,000円	10a	2
	④拾い上げ機(ピッカー)	3,000円		2
	③・④セット利用	5,000円		-
調整	⑤根葉切り機	2,000円	1日	5
	⑥磨き機	2,000円		5
	⑦選別機	2,000円		5
	⑤～⑦セット利用	5,000円		-
乾燥	乾燥施設	5円	1kg	-
	鉄コンテナ	乾燥施設利用料に含まれる	500kg(コンテナ含む)	400

平成29年12月現在

春まきたまねぎ栽培暦
平成29年12月作成
宮城県大崎農業改良普及センター

「春まき」たまねぎ栽培暦

「春まき」たまねぎ栽培に取り組んでみませんか？

- 秋まきに比べて作期が短いため(1月播種・7月出荷),他の露地園芸作物と組み合わせ、同一ほ場で春秋年2作体系が可能です
- 水稲育苗ハウスを有効活用して1月～3月に育苗することができます
- 在ほ期間が短いため,秋まきに比べて株落ちの少ない作型です
- 全国的な端境期にあたる7月に収穫できるため,安定した価格で出荷できます
- 秋まきたまねぎと組み合わせることで,収穫・出荷期間を拡大することができます
- JAでは,播種から収穫・調整までの各種機械を整備しており,機械化一貫体系で生産できる体制を整えてお待ちしております



加美よつば農業協同組合
宮城県大崎農業改良普及センター



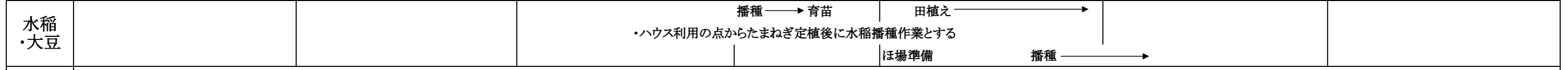
春まきたまねぎ栽培暦



----- 育苗 生育期間

2017.12 宮城県大崎農業改良普及センター

月	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月																		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下																
たまねぎ	播種準備						播種						定植						ほ場管理						除草の徹底						収穫						乾燥選別出荷
	<ul style="list-style-type: none"> 育苗は無加温パイプハウスにて可能 ハウス内は内張ビニールを張りトンネルにはビニールと保温マットをかけて0度以下にならないようにする 						<ul style="list-style-type: none"> ▲:せん葉(葉切り) ・せん葉前に殺菌剤による防除を行う ・本葉3枚目以降12~15cm程度に葉を切る 						<ul style="list-style-type: none"> ▲:せん葉 ・定植までに2~3回行いできるだけ太い苗を準備する 						<ul style="list-style-type: none"> ほ場管理 						<ul style="list-style-type: none"> 除草の徹底 						<ul style="list-style-type: none"> 収穫 						乾燥選別出荷
水稲・大豆	播種時期						育苗期						茎葉の生育						肥大期						倒伏	収穫期											



☆:10aあたりの作業時間 (☆人数:時間)

播種 全自動播種機で播種 448穴セルトレイ(☆4人:4.5時間)※

定植 歩行型全自動移植機による定植(☆5人:4.0時間)※

収穫・調整・乾燥

・歩行型堀取機,歩行型ピッカーによる収穫(☆7人:6.0時間)※

・全自動調製,選別機による調製,選別(☆6人:3.4時間)※

・乾燥施設を利用することも可能※

本圃の準備
天候が不安定な時期なので雪解け後早めに準備しておく
①堆肥散布
②基肥散布
③全面耕耘
④畝立て

畝のすがた
・畝立て(☆2人:1.2時間/10a)
※株間は12~13cmとする

雑草・病虫害防除

ブームスプレイヤによる薬剤散布

除草剤による防除
・選択性除草剤を使用 表面処理剤を雑草発生前に散布する
・5月中旬以降は使用できる除草剤が少ないため、この段階でできるだけ雑草をおさしておく

殺菌・殺虫剤による防除
・初期はべと病,後半は軟腐病等が防除の対象
・粒剤効果が低減する5月以降はアザミウマ類が防除対象

倒伏直前の春たまねぎ

収穫機による収穫作業

ピッカーによる拾い上げ作業

雑草防除時期

・春まき栽培の最も重要な管理点は、5月から収穫期までの雑草防除
雑草が出る前、又は芽生え後すぐに除草剤等で対策をとっておく
・収穫時期に雑草が多いと収穫機械の作業効率が悪くなる

・一年生雑草,広葉雑草防除(定植後,ブームスプレイヤ)・一年生イネ科雑草防除

・5月中旬以降はできるだけ雑草を出さないように注意する(場合によっては手取り除草も行った方がよい)

病虫害防除時期

予防防除を中心とする

・べと病,白色疫病防除
・苗立枯病

・白色疫病,べと病防除
・ネキリムシ,タネバエ防除

・べと病防除

・軟腐病防除
・アザミウマ類防除

・べと病防除
・アザミウマ類防除

育苗準備と育苗

・播種量は25,000粒/10a,品種は「ネオアース」,「オーロラ」等が適している

・播種後は発芽までシルバー等をかけて保温に努める。発芽揃いまでは約10日かかる

・2葉期以降は週1回液肥で追肥を行う

・播種1ヶ月後くらいからせん葉を行う せん葉を行うと茎の肥大が進む 傷が乾くよう、せん葉は晴天日に行う

10aあたりの土壌改良資材の例

資材	普通畑	畑地化した転作田	畑地化していない転作田
完熟堆肥	2~3t	3~4t	4~5t
苦土石灰	120~150kg	150~200kg	250~300kg
苦土重焼燐	40kg	40~50kg	40~60kg

ほ場づくり

・排水の悪いほ場は弾丸暗渠や明渠を掘る

・畝は可能な限り真っ直ぐ立てる

→曲がると後の機械作業がしにくい

・定植前に殺虫剤粒剤の土壌混和を行っておくとの良い

***施肥・追肥**

・基肥のみ施用を基本とする 秋まきとは異なり追肥はしない

10aあたりの施肥例

ほ場	苦土重焼燐(kg)	MMB燐加安 14号(kg)	CDU複合燐加安 S555(kg)
普通畑	20	60	45

※窒素成分量で約15kgを基肥施用する

定植時の注意

・前日に苗はかん水しておく

・葉鞘部の半分まで埋まるよう、植え付け深さを調整する

・定植後速やかに 除草剤を散布する

栽培管理の注意点

***除草**

・初期から選択性除草剤を用いてできるだけ雑草を出さないようにする

・5月以降は使用できる除草剤が少ないので、雑草が出ている場合は手取りも検討する

***病虫害**

・白色疫病,べと病等の病気は予防剤の定期散布で防除

・アザミウマ等の害虫は定期的に観察し,見つけ次第防除する

収穫のポイント

・梅雨時期の収穫となる 茎葉の倒伏が始まったら早めに晴天日を選んで秋まきより早めのタイミングに収穫する。高温時期で,玉が焼けやすいため直射光が当たらない場所へ早めに運ぶ

・乾燥施設に収容時は,調製機等で根と葉を切り落とす 葉がついたままだと腐敗の原因になる

・目標とする収量 4t/10a (200g程度の玉で21,000個収穫を想定)

全自動調製・選別機

収穫した春まきたまねぎ